



Flash News

◆ 学長顧問 ◆



豊田 長康



珠玖 洋

◆ 特命学長補佐 ◆



渡邊 悌爾



加藤 征三

◆◆ 学長補佐 ◆◆



小川 眞里子

(女性研究者支援担当)



朴 恵淑

(環境ISO担当)



奥村 晴彦

(情報担当)



西村 訓弘

(社会連携研究担当)



石田 正昭

(高大連携担当)



江原 宏

(国際交流担当)



山本 俊彦

(教員免許状更新講習担当)



児玉 克哉

(広報担当)

理事退任挨拶



東 晋次

企画・評価

この2年間、認証評価や法人評価への対応、教員個人評価制度の整備、全学同窓会の設立、和歌山大学・鈴鹿医療科学大学等との連携、三重県・津市その他の自治体との協定、文科省でのヒヤリング、各種の講演会やセミナーなど、様々な取り組みや事業、そして会議がありました。就任前の予想をこえる実にあわただしい毎日、よくまあ身体がもったものだと思っております。学内の皆様には、いろいろな面でご協力いただき、まことにありがとうございました。新執行部を中心に、三重大学がさらに輝きを増すよう、中国天津の地よりお祈りしております。

総務・財務

2年半の間、総務・財務担当として大変お世話になり、ありがとうございました。この間、財務部門は事務方が着実に処理し、施設部門は学長先生のお力と事務の努力で飛躍的に進捗しました。環境関係は朴先生に頼りきりでした。職員人事では、積極的な施策への脱皮に着手しましたが、紛争処理に追われ、まだこれからというところです。本学はまだ多くの課題を抱えています。それゆえ可能性も大きいと思えます。躍進のカギは、教員と事務のパートナーシップの構築であると考えます。今後の本学のご発展を祈念しております。



三浦 春政

研究

新しいタイプの人材育成を目指す独立大学院地域イノベーション学研究所の設置、異分野融合や研究拠点形成を目指すリサーチセンター制度、戦略展開プログラムによる産学官連携体制の充実、インセンティブとしての報奨制度の導入、地域貢献活動支援事業等々、そして法人評価、苦しいながらも楽しく何ものにも代えがたい数多くの経験をさせていただき、本当に多くの方々から献身的に支えていただきましたことを感謝致します。学内研究支援体制の充実など志半ばでできなかったことは多々ありお詫びしますが、次期体制に託し大いに期待しています。2年間本当にありがとうございました。



奥村 克純

情報・広報・国際交流

情報・広報・国際交流担当理事・副学長としての2年間は、今期の中期目標・計画に掲げた全ての業務の確実な達成と次期中期に繋がる基盤システムの整備とコンテンツの充実を中心に取り組んできました。任期中に実現した主な取り組みとしては、情報・図書関連では、学生・教職員が快適な学習・教育・研究・事務環境を享受できる情報システムの整備とコンテンツの充実、国際交流関連では国際交流特別奨学生制度や留学生宿舎の建設等の留学生受け入れ環境の整備、広報関連では広報誌、HPを用いた効果的な情報発信が挙げられます。これらは、教職員の皆様のご協力やご支援によって実現できたものであり、退任にあたり改めて御礼申し上げます。



小林 英雄

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。登 勉 (nobori@chin.medic.mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 後藤正和

目次

- 内田淳正 第11代三重大学長「新任挨拶」
- 豊田長康 第10代三重大学長「退任挨拶」

- 新組織
- 理事挨拶
- 副学長挨拶
- 監事挨拶

- 理事退任挨拶

内田淳正 第11代三重大学長「新任挨拶」

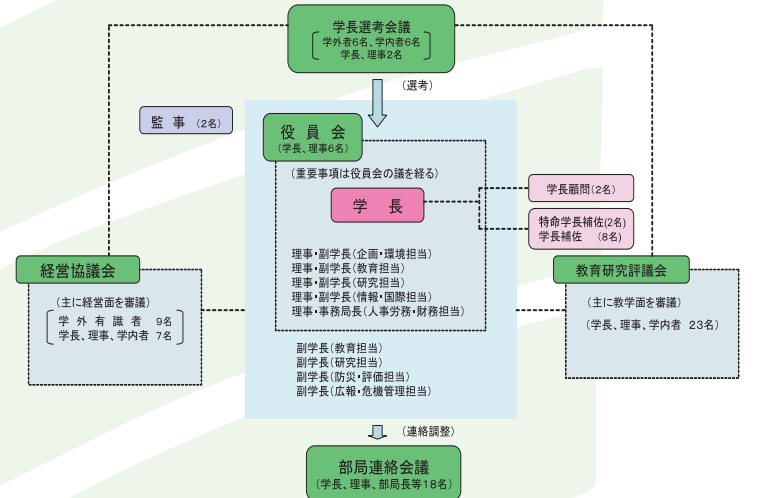


内田 淳正

教職員の皆さん、生き生きとして元気で明るい三重大学にしましょう。法人化後の大学は多くの課題が複雑に絡み合っていますが、一つひとつ丹念に解きほぐしていきましょう。それぞれの課題を正確に認識するためには「意識の改革」が求められます。三重大学をよくしようとの意識で教育の課題、研究の課題、組織の課題などにそれぞれが積極的に取り組むことが必要です。地道に少しずつでも前に進めることができれば、

素晴らしい地域圏大学として評価され、国内外に多くの有意義な情報を発信できる教育・研究の拠点となります。われわれの明るい未来のために、みんなで手を組んで前進しましょう。執行部はそのために時にはリーダーシップを発揮し、時には縁の下の力持ちとなります。よろしくお祈りします。

国立大学法人三重大学の運営組織

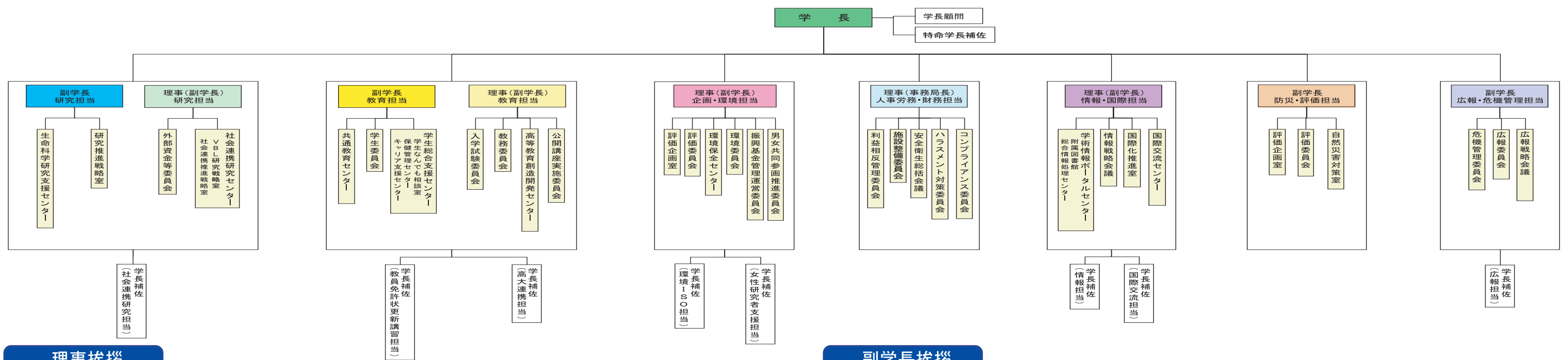


豊田長康 第10代三重大学長「退任挨拶」

平成16年の国立大学法人化と同時に三重大学長を拝命し、5年間の任期を全うできたことについてほっとしています。法人化直後は手探りの状況でしたが、次第に軌道に乗り始め、様々な新しい取り組みや基盤作りをすることができ、三重大学のミッション「地域に根差し、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」を、道半ばではあるものの、かなり実現したのではないかと思います。やり残したことも多いのですが、内田学長のもとで、学生・職員・教員が心をつなげて、本学の一層のレベルアップを目指して改善・改革を続けていただくことを期待しています。



豊田 長康



理事挨拶

企画・環境



後藤 正和

豊田長康前学長の時代は法人化直後の直面する諸課題に取り組み、大学改革に多くの成果を挙げて来ました。内田淳正学長の時代には、そうした取り組みの一つひとつの、そして三重大自体の『真価』が問われることは必須であると予測されます。これまで以上に、教職員一人ひとりがその個性と能力を活かし誰もが力を出し合えるキャンパス作りに努め、三重大の理想に向かって前進することが一層大切になります。企画・環境担当として、教職員の皆様とのつながりを大切にして三重大の将来像を企画展望するとともに、三重大が取り組む姿勢や諸活動が学内外に広く理解いただけるように努めて参りたいと考えております。よろしくお願いいたします。

教育

第1期中期目標期間では、各種センターの開設や拡充等の組織レベルから、FDや各種アンケート等の教職員の個人レベルまで、本学の教育・学生支援は大きく変貌を遂げ、成果を上げてきました。しかし、学位授与方針、教育課程編成実施方針、入学者受入方針の3つの方針に沿った教育や教育の質保証等、改善したいことは多々あります。これらは教職員から学生まで全構成員の協力なくして成し遂げられませんが、中川副学長と共に、羅針盤、潤滑油、触媒、エンジン等、様々な形で本学の教育力向上に向けて力を尽くす所存です。引き続き、よろしくお願いいたします。



野村 由司彦

研究



鈴木 宏治

本学の研究目標「地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな研究成果を生み出す」の達成には、研究者の自由な発想に基づく基礎研究や応用開発研究を進展させ、特定領域での世界水準の研究を推進する必要があります。また、研究成果を教育に反映し、広く社会に還元するため、研究内容の公表や産学官連携活動等の積極的な取り組みも重要です。新年度からは、全学および各局に「研究推進戦略室」を設け、また「社会連携研究センター」の機能を強化して皆様と一緒に本学の研究活動をより一層活発化したいと考えております。ご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

情報・国際

学内外の誰もが手軽に安全にいつのまにか高度なことができてしまうようなより良い情報ネットワークの構築、誰もが便利でアカデミックで実に役に立つと感じる学術情報、図書、博物資料の整理と提供、高度で幅広い国際交流、国際的なキャンパス環境、そして外国人の比率が際だって高い三重の地にあって多文化に関わる先進的な取り組みがいつのまにかできてしまっている、そんな三重大になるように微力ながら尽くしてまいります。ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。



松岡 守

人事・財務



坂口 力

今般、人事・財務担当理事に就任することになりましたが、これまで文部科学省で特に文教予算の取りまとめを担当してきました。今後はこれまでの経験を生かし、微力ですが本学のために頑張って参りたいと思います。もちろん課題は山積していると思いますが、当面、次期中期計画の策定や病院再開発など、皆さんと一緒になって取り組んでいきたいと思っておりますのでご協力をお願い申し上げます。4月からは学長をはじめ新メンバーでの船出となりますのでチームワークを大切に頑張ります。

副学長挨拶

教育



中川 正

このたび、共通教育センターおよび学生総合支援センター担当の副学長を拝命しました。「4つの力」スタートアップセミナーの開始、リメディアル教育の拡充、修学支援・キャリア支援・学生相談支援などの総合的ピアサポートプログラムの整備、就職氷河期に対応したキャリア支援の強化、男子寮の耐震補強改修に伴う調整など、多くの課題がありますが、教職員の方々および学生さんたちのご支援をいただきながら、責務を全うしたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

研究

鈴木宏治理事とともに本学の研究に関する事項を担当させていただきます。鈴木先生は主に社会連携、私は学内の研究推進にあたります。本学の研究環境を充実させるために、各種の研究支援策を実施したいと考えます。まず、研究推進戦略室を創設し、各局にその受け皿となる委員会等を設置していただきます。この組織をととして、研究支援を円滑に実施したいと考えます。また、研究支援の一環として、全学の共通機器をより効率的に利用できるような体制作りに取り組みます。これらの実施は各局や教員と職員の協力があって、はじめて可能となりますので、ご理解、ご支援のほどお願い申し上げます。



加納 哲

防災・評価



畑中 重光

防災に関しては、これまで室長を務めてきた「災害対策プロジェクト室」を「自然災害対策室」として発展的に改組し、三重大の学内防災体制の充実、地域防災への貢献、防災研究の充実を活動目的の三本柱に掲げて、その取り組みを推進したいと思います。また評価に関しては、これも室長を務めてきた「評価企画室」を中心に、組織評価と教員個人評価の両面について、より効率的で構成員の方々の負担を最小限に抑え、かつ健全な形でPDCAサイクルが回るシステム作りを目指したいと思います。いずれの事業も構成員の皆様のご協力無くしては実現し得ません。三重大のより良い姿を求めて努力していく所存です。皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

広報・危機管理

春爛漫のキャンパスに新入生を迎え、広報・危機管理担当副学長という新しい職務を拝命した私自身も新入生と同様に不安と期待を内包した落ち着いた気持ちです。法人化後、活発に展開されてきた広報活動の流れを確かなものとし、学内外の声を広く聴いていく「広報・広聴活動」を推進してまいります。危機管理は、平時の安全管理と対をなすものであり、予想される危機への対策を進めてまいります。構成員の皆様のご協力とご指導を心よりお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。



登 勉

監事挨拶



村生 安彦

法人化後の大学の大きな課題は「財政難の中での効率的、効果的な大学経営の実現」であり「教育の質の維持・向上と学生の満足度の向上」であり「国立大学法人としての説明責任」であると理解しています。そして業務監査の目的はこれらの課題に対処する大学の健全な発展に資するため、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、経済的な運営を図ることです。これからは三重大が社会に開かれ、ますます頼りにされる大学になるよう少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願いいたします。